

SAFETY

街の

電気安全カルテ

電気安全PRキャンペーン

- 春期公衆感電事故防止PR 3月～5月
- 電気使用安全月間 8月
- 冬期公衆感電事故防止PR 12月～2月



電気安全九州委員会
九州電力送配電株式会社

作業時のチェックポイント!

こんなとき感電事故が起きています。

建設工事の現場で電線に接近して作業を行う場合、適切な予防措置や注意をしなかったために感電事故が起こることがあります。作業を行う前には養生ネットを張ったり、電線に絶縁用の防護管を取り付けるなど、裸電線、被覆電線に関係なく、適切な予防措置が必要です。作業開始の前に付近の状況をよく確認し、早めに九電送配サービス(QSS)へご相談ください。

九電送配サービス(QSS)



[防護管取り付けには15営業日程度かかりますので、お早めにQSSへWEBにて、お申し込みください。]
またビル工事などの場合は、安全管理責任者の方が建設現場図面を持って、ご相談ください。

組み立て作業中

建設現場の足場組み立て作業時に、鉄パイプが高压線に接触する事故。



クレーン作業中



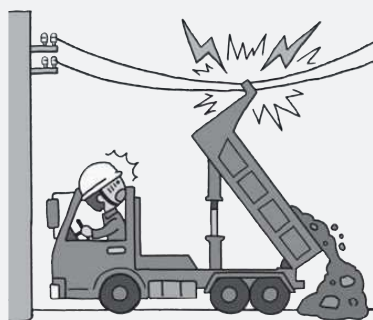
建設現場などでクレーンを使用する場合に、クレーンのブームやワイヤーが高压線に接触する事故。

大作業中

電気ノコや電気カンナなどの電動工具のコード損傷部に触れて起こる事故。
屋外で電動工具を使用される場合は、漏電遮断機の取り付けが必要です。



ダンプ作業中



ダンプカーで荷台の上げ下ろしの作業を行う場合に、高压線に接触する事故。

看板塗装作業中

看板などの塗装作業を行う場合に、高压線に接触する事故。



伐採・剪定作業中

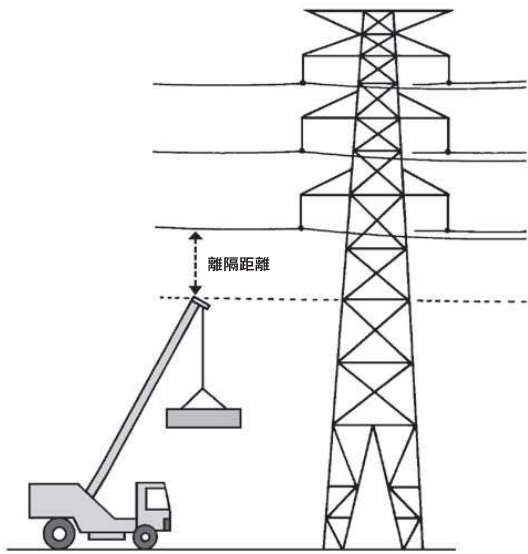
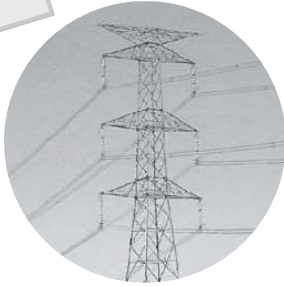
木の枝を伐採・剪定する際に、高压線に接触する事故。



知っておきたい、作業時の「電気」の知識

送電線に近づくと危険です!

送電線は電圧が非常に高いため(2万ボルト~50万ボルト)、電線に直接触れなくても感電することがあります。このため、電線との離隔距離は、電圧が高くなるほど多くとる必要があります。送電線の近くで作業を行う場合は、軽微な作業でも必ず事前に九州電力送配電へご連絡ください。



送電線から離すべき距離(離隔距離)

電 圧	がいし個数	離隔距離
22,000ボルト以下	2~4個/カ所	4m
66,000ボルト	4~6個/カ所	
110,000ボルト	7~9個/カ所	6m
220,000ボルト	14~18個/カ所	
500,000ボルト	29~52個/カ所	11m

知っておきたい、暮らしの中の「電気」の知識

漏電遮断器を取り付けましょう!

電気は目に見えず、匂いもないため、もし配線や家電製品の故障で漏電していると、知らずに触れて感電したり、火災の原因になります。漏電遮断器を取り付けていれば、万一漏電しても、瞬時に電気を切って、事故を未然に防いでくれます。単相3線式配線の場合、単3中性線欠相保護機能付の漏電遮断器の取り付けが義務づけられています。

取り付けが義務づけられているもの

次のいずれかに該当する場合には、漏電遮断器を取り付けることが義務づけられています。

- 水気のある場所に電気機器を設置する場合。
- 浴用に使用する電気温水器を設置する場合。
- 屋外や建物のそばにコンセントを設置する場合。
植物栽培などのために、電気温床や電気加湿装置などを設置する場合。
- プール、噴水、池などに給排水ポンプ、循環ろ過ポンプなどの電動機設備を設置する場合。
- 対地電圧150V以上の電気機器(大型ルームエアコンなど)を設置する場合。
- 電動機のある電気機器を雨にぬれる場所に設置する場合。



次のいずれかに該当する場合には、漏電遮断器を取り付けると安心です。

取り付けが望ましいもの

- 湿気のある場所に電気機器を設置する場合。
- 洗濯機、脱水機、食器洗い機及び庭園灯などを使用する場合。
- 屋外に電気機器を設置する場合。
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、金属板張りの壁のある建物に電路を施設する場合。



お取り付けは、電気工事店へご相談ください。